

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月19日

【評価実施概要】

事業所番号	4572000513		
法人名	特定非営利活動法人あおぞらの会		
事業所名	グループホームあおぞら		
所在地	宮崎県児湯郡都農町大字川北18922-3 (電話) 0983-21-2602		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成21年2月13日	評価確定日	平成21年3月19日

【情報提供票より】 (平成21年1月21日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成13年5月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤6人, 非常勤2人, 常勤換算6.4人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,750 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,050 円

(4) 利用者の概要(平成21年1月21日現在)

利用者人数	9名	男性 1名	女性 8名
要介護1	0	要介護2	4
要介護3	4	要介護4	1
要介護5	0	要支援2	0
年齢	平均 88.5歳	最低 75歳	最高 96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人杏林会三股病院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは高台の小集落民家の中にあり、玄関横に菜園が作られ、玄関や居室の前には花が植えてあり、利用者の生きがいや楽しみ作りになっている。デッキからは海や山が見え、四季折々の季節を感じながら静かで落ち着いた時間を過ごすことができる環境にある。職員同士の信頼関係も厚く、利用者が安心して生活できるように、全職員が一丸となって利用者を共感的に受け入れることを大切にしている。また、地域密着型サービスの役割を考え、近隣との交流やホームの理解を深めるために、地域の行事等に利用者と職員が参加し交流することに努めている。社会福祉協議会や小学校等のボランティア活動も多く受け入れ、利用者も一緒に楽しいひとときを過ごしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(改善項目;外部4)
	外部評価の結果を踏まえ、改善計画シートが作成してあり、優先順位をつけ運営者と全職員が前向きに取り組んでいる。重度化や終末期に向けた方針の共有については、事業所が対応し得る最大のケアを行っているが、意志確認書や対応方針等は定められていない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価については、ミーティングや職員会議で目的や意義を話し合い、職員が意見を出し合いとりまとめられている。運営者、管理者、職員が積極的に取り組んでおり、自己評価をサービスの質の確保に生かしていきたいという意欲がある。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は年4回開催されている。会議時にホーム便りを配布し、事業所の活動状況や利用者の状況、自己評価、外部評価の結果の取り組み等を説明して、これについて率直な意見をもらい協力を得ながらサービスの質の向上に生かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情箱を設置している。家族が自然体で職員に相談や苦情を言える雰囲気がある。遠方の家族には電話連絡を行い、家族会や家族の来訪時に不満や苦情が出しやすい場を設定し、出された意見・要望等はミーティングや職員会議で話し合い運営に反映させている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地区自治会に加入し、近隣から季節の野菜を届けてもらったり、地区の小中学生によるボランティア活動や職員と共に利用者が地域の行事に積極的に参加して地域とのつながりや交流を深めている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの役割を理解し、果たすべき役割を反映した内容の理念が、全職員で話し合われて作られている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々理念の実践に向けて全職員で話し合い、利用者へのサービス提供場面において、利用者の楽しみごとを引き出せるかかわりを行い、理念に基づいた取り組みがなされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区自治会に加入し、地区の行事（敬老会、運動会等）には利用者と共に参加している。また、地区の小学生がボランティアとして活動してくれるなど地域との交流がある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を実施する意義を理解し、運営者と全職員で自己評価に取り組み、外部評価の結果を踏まえ、改善計画シートを作成し、期間を定めて優先順位をつけ改善に向けた取り組みがなされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議への積極的な参加の呼びかけが行われ、会議の定着化は図られているが年4回の開催である。	○	地域の理解と支援を得るために、地域で活動をされている人々（消防団等）の参加と地域に開かれたサービスとして質の確保を図るために、2か月に1回以上の開催を期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現場や利用者の課題解決のために、直接担当者に電話連絡をしたり、運営推進会議時に運営や現場の実情を伝える機会を作りサービスの質の向上を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の日常生活・行事を載せたホーム便り、家族会や家族の来訪時に本人の状況や暮らしぶりを報告している。遠方の家族には電話連絡をしている。金銭管理は、定期的に報告されており家族が確認した日付や確認印がある。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が自然体で職員に相談や苦情を言える雰囲気がある。遠方の家族には電話連絡を行い、家族会や家族の来訪時に不満や苦情が出しやすい場を設定し、出された意見・要望等は全職員で話し合い反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	従業者の員数は、ゆとりある配置になっており、現在は離職者もなく利用者と職員のなじみの関係が保たれている。今後はマンネリ化を防ぐために、利用者との関係づくりや他のホームとの相互研修、サービスの質の確保に対する研修を考えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修への参加の機会を多く持ち、その体験を現場で報告したり、復命報告書を提出している。職員の質の確保や向上に向けた取り組みが行われている。	○	研修復命書等には、運営者と全職員の確認印を徹底してほしい。今後も全職員が地域密着型サービスの従業者として質を向上させ、実践力を身につけるために、運営者が現状の理解を深めることを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人の職員や町内の同業者とも交流を行い、サービス水準の向上につなげている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始前に、家族や利用希望者にホームを見学に来てもらい、ホームの雰囲気になじみ、安心し納得しながらサービスを利用できる柔軟な支援がなされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者を敬い、思いに寄り添い、居心地の良い環境の中で利用者の話を聴くことを大切にしている。職員は、人生の大先輩である利用者からいろいろな場面で教えていただく姿勢を常に心がけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「本人が何をしたいのか、誰に会いたいのか、どういう暮らし方をしたいのか」を利用者に寄り添いながら思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者がよりよく暮らすために本人や家族の気付き、意見、要望を聞いてその結果をもとに介護計画を作成している。また、各記録も介護計画に連動している。	○	介護計画を職員全体で取り組み、利用者の思いや意向を把握し、生きた取り組みがなされている。常に全職員で検討を行なっているが、地域でその人らしく暮らし続けるために、必要な支援が盛り込まれた個別の具体的な介護計画になっていないので今後期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画実施状況・評価表が作成されており、介護計画と照らし合わせて、現時点での利用者や家族の状況や意向、サービス状況とずれがないように適切な見直しが行われている。さらに、現状と介護計画がかみ合い、実情に応じたケアにつながるように介護計画実施状況・評価表の様式変更に取り組んでいる。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の自宅にドライブに出かけたり、墓参り、病院受診の支援等、本人や家族の状況に応じて柔軟に対応し個々の満足を高めるように努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	適切な医療が受けられる環境の整備がなされており、本人および家族の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と連携を図り、医療機関との関係を密に結んでいる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時から終末ケアについての話し合いを随時行い、かかりつけ医と話し合いの下、事業所が対応し得る最大のケアについて説明をしている。重度化に伴う意志確認書や終末期に対する対応方針等は定められていない。	○	段階的な合意は本人や家族との話し合いで得られているが、重度や終末期の利用者の安心と安全を確保し、よりよく暮らすためにできるだけ早期に関係者全員で方針の統一を図っていくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	日常的に、また、職員会議やミーティング時にも全職員の意識向上を図っている。目立たずさりげない声掛け、利用者の尊厳を大切にゆったりした対応に心掛けて安心できる生活が送れるように支援している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの本来持っているペースや本人の望んでいるペースに合わせた支援がなされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	家庭的な雰囲気の中で、静かに今風の音楽やなじみの音楽が流れ、色とりどりの花が飾られた明るく落ち着いた食堂で、職員が食事の介助をし、利用者と一緒に楽しく同じ食事をしている。また、利用者の個々の力を生かしながら一緒に職員と準備や片づけをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に合わせた入浴（これまでの生活習慣に合わせた時間、入浴方法）体制のもと、柔軟に支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの得意なことを把握し、力を発揮してもらい日々の暮らしが楽しみのあるように支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	小学校のボランティア、敬老会や運動会への参加、地域への散歩、買い物、ドライブ、外食、職員宅への訪問、デッキでの催し事等、戸外で気持ちよく、生き生きと過ごせるように多彩な支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の行動を把握し見守りながら対応しており、鍵をかけずに安全に過ごせる工夫を行い自由な暮らしを支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回、消防訓練を行っている。火災や地震等のために東・南側ベランダに避難口の設置がなされている。職員はいざという時に確実な避難誘導ができるように認識している。	○	マニュアルを作成し、消防署や地元の消防団・警察等とも連携を図りながら、事業所の災害対策に関する理解を求め、支援体制の整備に取り組んでほしい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量は毎日チェックしており、食事は一人ひとりの嗜好を把握して献立に取り入れ、体調や栄養バランスにも配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や食堂には常に季節の花が生けられており、利用者が我が家のようにゆったりとソファに腰掛け外の景色を眺めたり、職員と話しをしたり、絵本を読んだりとくつろいだ姿が見られ、快適な生活空間づくりがなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら使い慣れたもの、好みのものを持参してもらい、居心地よく過ごせるように工夫されている。		

※  は、重点項目。